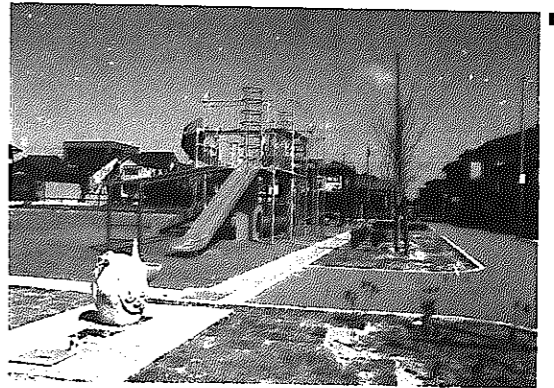


身近な情報をお寄せください  
(白根市役所企画財政課広報係  
☎373-2111)

## 気軽に利用できる憩いの場が完成

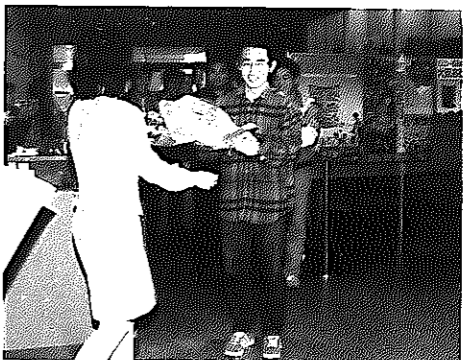
### 根岸地区農村公園



市が昨年九月から建設を進めてきた根岸地区農村公園(高井東地内)がこのほど完成しました。公園の広さは二千三百㎡。農村総合整備事業として国・県の補助を受けて総事業費三千八十万円で建設。園内は、昨年度県が制定した「福祉のまちづくり条例」に基づいて設計しており、園路などに段差が少ないのが特徴です。身障者用屋外水洗トイレや車いすのまま利用できる水飲み台も設置されています。障害者などが利用しやすいようバリアフリーを取り入れた公園は市内で初めてです。

## 来館者、10万人に到達

### しろね大風と歴史の館



花束を受け取る中邑さん

市の人口が四万人に到達したのに続き、四月十一日しろね大風と歴史の館の来館者が十万人に到達。同日、記念セレモニーが行われました。運良く十万人目の来館者となったのは八王子市の中邑仁志さん。「仲間と弥彦温泉に行く途中で立ち寄った。大風が見られるのを楽しみにしていた」と話します。風、地酒、コシヒカリなどたくさんのお土産を受け、「頂いたお土産は子供と一緒に揚げてみたい」とうれしそうに話していました。

## 大きな体験、楽しく報告

### 海外ホームステイ派遣事業帰国報告会



市国際交流協会の青少年海外ホームステイ派遣事業で、三月十九日から二週間、サンフランシスコへ行った市内の中学・高校生が無事帰国。四月十九日、青年教育センターで帰国報告会を行いました。あいさつに立った山口陽子協会長は「とても良い顔になって帰ってきましたね。お帰りなさい」と笑顔で迎えます。参加者からは「いろんな人に気軽に話し掛けられるようになった」、「世界の出来事に関心が出てきた」などの声がかげられました。

## 訪問看護ステーション、在宅介護支援センターを併設 老人保健施設「みずき苑」が完成



白根保健生活協同組合が運営する老人保健施設「みずき苑」が、五月一日、白根健生病院隣に開所しました。みずき苑は昨年八月から工事が進められ、今年三月に完成。総工費約十億円で、鉄骨造り三階建て(一部四階)、延べ床面積は四千二百㎡。入所定員は九十六人(うち短期入所四人、痴呆症二十二人)、通所は当初四人でスタートします。施設には、訪問看護ステーションと二十四時間体制で介護に関する相談ができる在宅介護支援センターが併設されています。

## さあ合戦、今年は新綱

### 桜蝶組風網完成式



桜蝶組では待望の新しい風網が完成。「今年は優勝」と意気上がります。このほど必勝と安全を祈願して市内料亭で完成式を行いました。完成した網は約四百四十m。材料の麻を

町内会代表がわざわざ長野県へ出掛けて仕入れてくるほどの熱の入れようでした。町内会長の狩谷松雄さんは「新綱だからね、相手は怖がって掛けてこないかも。こっちは女風、相手待ちなのでどんどん掛けてきてほしい」と自信をのぞかせます。編み手の長井照夫さん(能登六八)は「長野の麻は結構編みやすかった。大体百日くらいかかりましたね」と語ります。苦心の大作への愛着を聞くと「勝負はときの運、切れるのは仕方ない。それより昨年のようにどんどん掛かって素晴らしい合戦になってほしい」と近づくと白根の一大イベントに胸躍らせていました。

## マナーを守って楽しい釣りを

### 釣りサークルが驚ノ木大通川を清掃



四月二十日、驚ノ木水門近くの釣り場で清掃作業が行われました。これは同河川で釣りを楽しんでいる三つのサークルが、川をきれいにしようと十年以上前から毎年行っているもの。今年は環境美化を呼び掛ける立て看板二本がロータリークラブから寄贈され、釣り場付近に立てられました。ごみ拾いには、約四十人が参加。釣り人にもごみ袋を配って協力を求めました。空き缶・瓶など集められたごみは、二トントラック約四台分にも上る量。ごみ拾いに参加した人は「次の世代にこの自然を残すためにも、大切に利用してほしいですね」と話していました。

## 手づくり集会、引き金に

### 連載・見えてきた拠点(仮称)生涯学習センター②

陳情や請願の場ではなく、市民団体と市長が一緒になって白根の未来を語り合おうという談・談・トーク。市側の出席者は市長と記録担当者だけ。会場設置や司会進行などは一切団体側が行うという、市民手づくりの対話型集会です。平成五年、第三次総合計画も終盤を迎え、第四次計画の話が聞かれるようになることから、市内のさまざまな団体が談・談・トークを開催。市長と共に白根市の将来を語り合うようになっていきました。もちろんその中には、新しい図書館や中央公民館の建設を求めた団体もありました。

### 談・談・トーク

平成五年八月、談・談・トークの場となった市役所大会議室に、図書館の利用者や図書館連絡協議会の役員らによる、図書館を取り



▲市民団体と市長がひざを突き合わせて市の将来を語り合う談・談・トーク。これまで23団体が開催した。

竹内市長は「当時は生涯学習センターという構想はまだなく、公民館、図書館ともそれぞれ単独で造った方がいいと思っていました」と言います。そして「皆さんの熱意には感じるものがありました。そのほか市民のいろんな夢や生の声をあちこちで聞きながら、生涯学習センターという構想ができていったんです」と振り返ります。

※5月1日号の3ページで、笠原菜々子ちゃんの住所が上塩俣となっていたのは、根岸の誤りでした。おわびして訂正します。